

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4076100207		
法人名	有限会社 福寿草		
事業所名	グループホーム 福寿草		
所在地 (電話番号)	飯塚市北古賀731-3		(電話) 0948-72-5558
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月16日		

【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.25人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	木造	
	平屋 建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成20年1月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低 81 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永芳医院 大田内科外科医院 塚本クリニック 大塚歯科 筑豊病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム福寿草は田園地帯が広がり、篠栗線の電車が何度も行き交う姿を見渡せる、のどかな環境の中にある。居間から廊下にかけて全面床暖房を設置し、居室は全て南向きで一日中、陽が差し込み快適に暮らせるよう配慮してある。地域のイキイキサロンの参加や食事会・老人会のグランドゴルフ・子供会との交流と積極的に地域に慣れ親しめる家づくりを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題として、介護計画については、見直しやモニタリング等はされているが、採用後のフォローアップ・研修等が十分に行われていない。職員の異動が多く、勉強会や研修が計画的に出来ず、今後はやり方を検討している。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対して、全ての職員が把握できていない。職員の入れ替わりが多く、取り組みが出来ていない。評価の意義やねらいについて、みんなで話し合い、サービスの質の向上につなげるよう全員で取り組めるようにしたいと思っている。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2月に1回、利用者・家族・自治会会長・管理者等が出席し、運営やサービス提供の方針・活動内容・外部評価の報告等を行っている。地域の方の理解や支援を得るために意見や質問等をもらえるよう積極的に働きかけるようにしたいと思っている。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>玄関にいつでも意見・苦情・要望等を入れられるよう意見箱を設置している。ほとんどの家族が近くに住んでおり、訪問されたときにいつでも気軽に相談や苦情が言えるような雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、老人会・子供会・福祉会の夏祭りや空缶拾い・清掃活動等の行事に参加し、台風時等の避難場所にホームの提供を呼びかけ、日常的なつきあいが出来るように努めている。地域の行事をホーム内の敷地でしたいと思っている。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と家族の願い、利用者を最大限尊重し、その人らしい人生の継続を支え、地域で慣れ親しんだ家作りを目指すという理念を、職員全員で考え独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回ミーティングを行い理念を共有し、常に頭に入れ理念に向けて日々取り組み、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、老人会や子ども会等の行事や食事会、地域での空き缶拾いや清掃活動に参加し、地域の人との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価や外部評価についての話し合いが行われておらず、職員も把握が出来ていない。今後は職員を育て、取り組んでいきたいと思っている。	○	職員全員で自己評価や外部評価の意義やねらいについて話し合い理解し、サービスの質の向上に向けて取り組むよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、利用者・家族・自治会会長・市職員等が出席し、ホームの方針や活動内容、外部評価等の報告をしている。	○	ホームは報告するだけにとどまらず、積極的に話し合いや意見の交換、要望など出してもらい、サービスの質の向上に活かせるように今後期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の派遣依頼をし、意見交換や相談をしている。何か相談がある時は市の担当者と話すこともあり、情報交換等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に飯塚市社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業の活用をされている方がおり、職員全員が理解している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠くに在住の家族やなかなか来れない家族には、電話や手紙にて利用者の状況を報告している。ほとんどの家族は近くにおられ、訪問時は時間の許す限り、家族と会話するように努め、状況等の報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が安心して意見・苦情・相談等が気軽に言えるように努め、常に気を配っている。意見箱を玄関に置き、いつでもサービスに活かせるようにしている。契約時にホームの苦情相談窓口と公的機関窓口の説明をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑える努力をしているが、入れ替わりが多く、利用者のとまどいやダメージがある。	○	管理者は職員の指導や相談にのり、職員がストレスをためないよう離職を最小限に抑えられる取り組みが期待される。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集にあたり、性別や年齢等を問うことはなく、情熱のある人を採用している。本人に合った勤務体制をつくり、話し合いを行い、常に配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングの時に、管理者や職員間でサービス提供時に気づいたことなどを職員全員で話し合い、人権について考えるよう取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成のため、学習会や研修の参加を計画的に行っていたが、現在は職員の異動が多く行われていない。今後は勉強会や研修を受ける機会をつくり、検討している。	○	職員が向上心を持ち、資格等が活かせる職場の環境作りに努めるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者・管理者は職員にとって同業者との交流や勉強会がサービスの質の向上につながることは理解しているが、現在は電話の情報交換をするくらいである。今後、相互訪問の研修の提案がある。</p>	○	<p>同業者同士の交流や連携は職員にとってサービスの質の向上につながり、ホームにとってもサービス水準の向上になる。積極的な取り組みを望まれる。</p>
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心して生活するために、利用前に自宅や病院に面談に行ったり、何度かホームに遊びに来てもらったり、家族と相談しながら早くなじめるように努めている。</p>		
<p>2. 新たな関係作りとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と一緒に生活する中で、家事や炊作りなど職員が知らないことや、ちょっとした知恵などを気づかせてもらったりと、学ぶことが多く、共に喜怒哀楽を共有しあえる関係を築いている。</p>		
<p>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>介護計画書には、本人、家族の生活に関する意向が記載されているが、アセスメントは身体状況のみとなっている。</p>	○	<p>入所時に、身体状況のみならず、暮らし方の希望や、意向、また生活歴をきちんとアセスメントし、介護計画に活かしていく事が望まれる。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングの時に、課題やケアについて話し合い、計画を作成している。計画作成後に家族より確認の署名・捺印を頂いているが、家族が計画作成の話し合いに参加する場面が少ない。</p>	○	<p>介護計画は、本人、職員、家族等交えて、それぞれが意見や、アイデアを出し作成されることが望ましい。家族が担当者会議に参加できない時は、電話や、面会時に、意見を出して頂き、その意見も参考にしながら、話し合いを行い、介護計画を作成していくことが望まれる。</p>
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>目標期間ごとに、モニタリングを行い見直しがされている。期間の途中で変化が起きた時は、その都度、話し合いを行い現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院を家族に頼るのではなく、ホームで対応している。また長期入院のデメリットを考え、早期退院が出来るように支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に、かかりつけ医がある場合は、かかりつけ医に受診が出来るように支援をしている。かかりつけ医がない場合は、協力医の往診や受診をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向で癌末期の方をの入居を受け入れ、医師、家族、職員が連携を取り、看取りを行った。今後も希望があれば、医師、家族、職員が連携を取りながら看取りを行っていく準備がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや、プライバシーを損ねる言葉かけや対応は行われていなかった。また記録簿は、ぞんざいな取り扱いは行われていない。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は、希望に応じ散歩をしたり、希望があれば近くをドライブしたりと、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が畑で採ってきた野菜を利用した献立にしたり、好きな時間に食べられるよう食事時間をずらしたり、柔軟に対応している。利用者と職員が別々に食事をしている。	○	食堂のスペースの問題があるが、職員と利用者が一緒に食卓に着ける取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日までの午前中に、2つのグループに分け、隔日の入浴を行っているが、状況により柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味の畑仕事や、洗濯物たたみ、野菜の皮むき等、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は、散歩をしたり、希望に応じドライブをしたりして、戸外に出かけられるように、支援している。今年度は利用者、職員全員、利用者家族1名で、1泊2日で原鶴温泉に行った。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間雨戸は閉めるが、鍵は締めていない。また玄関の鍵、門扉は常時開けている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難経路は食堂に掲示されているが、1年間避難訓練は行っていない。災害時地域の方が、ホームを利用できるように、声かけを行っているが、地域の人々の協力が得られる働きかけは行っていない。	○	利用者の生命を守れるように、避難訓練は毎年きちんと行って欲しい。特に夜間を想定した訓練は必要だと思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ食事形態を変え、バランスよく栄養が摂れるように工夫している。水分は夜間以外は記録していないが、1日を通じて、水分量が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、ゆったりとソファが置かれ思いおもいにゆっくり出来るようになっている。3月の桃の節句前で居間兼食堂には、ひな壇が飾られていた。他の共有空間も清潔に保たれ不快感はなかった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室には、ダンス、鏡台、衣装かけ、テーブル等、本人の好みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。</p>		